

TOPIC <

～被災自治体への23区連携対応～ 「令和3年福島県沖を震源とする地震」に係る被災自治体への支援

令和3年2月

令和3年2月13日、福島県沖を震源として発生した地震では、宮城県及び福島県内で最大震度6強を観測するなど、東北から関東の広い範囲にかけて大きな被害をもたらしました。特別区は、災害救助法が適用され、特に被害が大きかった福島県に対して、23区共同で復興支援金を提供しました。

～特別区が連携して対応した主な災害支援～

- 東日本大震災（平成23年3月11日）
- 平成28年熊本地震（平成28年4月14日～16日）
- 平成30年7月豪雨（平成30年7月）
- 平成30年北海道胆振東部地震（平成30年9月6日）
- 令和元年房総半島台風（令和元年9月）
- 令和元年東日本台風（令和元年10月）
- 令和2年7月豪雨（令和2年7月）

EVENT <

～令和3年度第1回全国連携展示(埼玉県町村)～ 「ぶらっと埼玉～ちかくて楽しいプチ旅行～」



令和3年5月11日(火)～6月24日(木)

埼玉県町村会との連携事業として、埼玉県23町村(※)の魅力を紹介する展示を東京区政会館で開催しました。

※伊奈町、三芳町、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、東秩父村、美里町、神川町、上里町、寄居町、宮代町、杉戸町、松伏町



EVENT <

～令和2年度全国連携講演会(オンライン)～ 新しい生活様式下での関係人口の創出・拡大と地域の魅力の伝え方

令和3年2月10日(水)

新型コロナウイルスを想定した新しい生活様式下での関係人口の創出・拡大に向けた考え方や方策を考えると、地域が選ばれるためにその魅力の伝え方について考える講演会をオンラインで開催し、92名の方に参加いただきました。

EVENT <

～令和3年度第1回全国連携講演会(オンライン)～ 未来社会の創造と自治体間連携 —環境・教育・技術から考える地域のつながり

令和3年8月19日(木)

「未来社会の創造と自治体間連携—環境・教育・技術から考える地域のつながり」をテーマとした講演会をオンラインで開催し、135名の方に参加いただきました。

※講演会の内容は、特別区全国連携プロジェクトHP (<http://collabo.tokyo-23city.or.jp/>) からご覧いただけます。



特別区全国連携プロジェクト
公式Twitter
@Zenkoku_Renkei

プロジェクトのイベント情報を発信するほか、連携している市町村のイベント情報なども発信します。

よろしければ、
フォローを
お願いします!



特別区全国連携プロジェクト【ホームページ】

<http://collabo.tokyo-23city.or.jp/>

最新情報や
イベント情報などを随時更新!



全国連携 Q検索

各自治体の皆様へ 会員登録のご案内

特別区全国連携プロジェクトホームページは、全国自治体の皆様を対象に、会員専用のホームページを用意しております。会員登録をさせていただきますと、掲示板機能を使った東京23区との連携事業に関する情報交換や、本ホームページ上での貴自治体情報のPRが可能になります。

※本ホームページの登録・利用は無料です。

問い合わせ

特別区全国連携プロジェクトに関するお問い合わせ
03-5210-9747

特別区長会事務局 調査第1課 全国連携プロジェクト担当

特別区全国連携プロジェクトの会員専用ホームページ、会員登録についてのお問い合わせ
03-5210-9067

公益財団法人特別区協議会 事業部事業推進課

特別区全国連携プロジェクトの事業実施にあたっては、特別区長会と公益財団法人特別区協議会が連携して取り組んでいます。

東京23区 TOKYO 23 CITY 全国連携NEWS

日本を元気に!
23区から全国へ
全国から23区へ



vol. 4

発行・編集：特別区長会・公益財団法人特別区協議会
発行：令和3年9月30日

このNEWSは、東京23区が取り組む「特別区全国連携プロジェクト」を全国の多くの皆様に知っていただくためのPR情報紙です。本紙は、次のHPからもご覧いただけます。
特別区全国連携プロジェクトHP <http://collabo.tokyo-23city.or.jp/>
特別区長会HP <http://www.tokyo23city-kuchokai.jp/>
(特別区長会とは、東京23区間の連携を図り、特別区政の円滑な運営と特別区の自治の発展に資するため、昭和22年5月1日に設立された特別区23区長が組織する任意団体です。)

特別区 全国連携プロジェクトとは?

東京を含む全国各地域がともに発展・成長し、共存共栄を図ることを目的に、産業、観光、文化、スポーツなど様々な分野で特別区(東京23区)と全国の各地域が連携・交流事業を行う取り組みとして、平成26年9月に特別区長会が立ち上げたプロジェクトです。

さらなる連携を目指して

特別区長会会長(江東区長) 山崎 孝明

特別区と全国の自治体との連携により、共存共栄の道を探るべく進めてきた「特別区全国連携プロジェクト」は、取組みを開始してから7年を迎えます。この間、各自治体の魅力を発信するイベントや自治体間連携シンポジウムをはじめとする連携・交流事業、自治体との広域連携協定の締結や企業との包括連携協定の締結と、これらの協定に基づく事業、被災地支援など、様々な事業を展開し、1,000を超える自治体との連携・交流を実現することができました。

こうしたなか、新型コロナウイルス感染症拡大の長期化によって、本プロジェクトの展開にも大きな影響が及びました。主要な事業である災害等被災地への支援について引き続き実施する一方で、東北の復興を願ってプロジェクト発足当初から行ってきた「東北絆まつり」に対する協力・支援や、国の地方創生推進交付金を活用した広域連携事業、各区が独自に展開している交流事業は、その多くが中止や大幅な内容変更を余儀なくされました。

このような事態を受けて、これまでの事業のあり方や連携・交流の進め方について、改めて各地の皆様とやり取りを行うなかで、新たな連携のあり方を探るよい機会を持つことができました。さらに、WEB会議による意見交換や、リモート環境下での交流事業を実施するなど、工夫次第で様々な手段

によるコミュニケーションが可能であることがわかり、これまで連携事業を進めるうえで課題となっていた「物理的な距離」を超える手立ての一つを得ることができました。

我々自治体は、新型コロナウイルス感染症への対応のみならず、福祉・教育の充実をはじめ、防災などの安全・安心対策、子育て支援、地域活性化、文化振興、さらにはデジタル化や脱炭素社会の実現に向けた対応など、膨大な行政課題を抱えています。これらの課題は、一つの自治体の努力や取組みで解決することは難しく、今こそ連携を深めて協力し、知恵を出し合うことが必要です。

大きな成果のためには小さな一歩、地道な取り組みの積み重ねと、信頼関係、結びつきがとても大切です。我々東京23区は、新たな交流スタイルをさらに工夫しながら、連携の歩みを止めることなく、全国各地の皆様との絆がより一層深まるよう努力してまいります。

全国各地域の皆様、共存共栄のために、ともに歩みを進めていきましょう。



東北絆まつり2021山形を終えて

令和3年5月22日(土)・23日(日)の2日間、山形県山形市役所周辺にて、「東北絆まつり2021山形」が開催されました。場内では絆まつり福島開催時の映像が流れ、久しぶりのお祭りムードとなりました。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により1年程度の延期となり、今年は当初、公道でのパレードを予定しておりましたが感染症対策のため中止とし、規模を大幅に縮小して山形市役所周辺にて開催し、延べ8600人の方にご来場いただきました。

山形市役所敷地内にて2日間にわたり東北6祭りの衣装や楽器、山車などの展示を行いました。場内では絆まつり福島開催時の映像が流れ、久しぶりのお祭りムードとなりました。セレモニーでは6市の代表がそれぞれの祭りについての想いを語り、東北絆まつり実行委員会会長である山形市長より、震災からの真の復興と新型コロナウイルス感染症克服に向けて、「『東北の絆と復興』山形宣言」を行い、次回開催地である秋田市に、絆の火が受け継がれました。また、「復興の翼」とも呼ばれる航空自衛隊のブルーインパルスも山形市内上空を展示飛行していただき、コロナ禍で気持ちがふさがちがった社会に、感動と元気をいただきました。当日の様子はYouTubeでもライブ配信を行い、アーカイブ動画の再生数は5.7万回再生を超えています。



青森ねぶた祭

また、夜には「東北絆まつり山形学生チャレンジプロジェクト」による「竹あかり」展示を行いました。「東北絆まつり山形学生チャレンジプロジェクト」は、東北絆まつりにおいて、東北の若者の企画やアイデアを実現する機会を創出し、若者らしい自由で斬新なアイデアとアプローチで、東北ブランドの向上や地域活性化などを目指し、プロジェクトを通じて、東北の未来に向けた人づくりを行うとともに、人のつながり(絆)をつくり地域に遺るレガシーとするべく発足した、山形開催独自のプロジェクトです。熊本地震への鎮魂と復興を契機に全国に広がった「竹あかり」を、東日本大震災からの復興と鎮魂をテーマに開催する東北絆まつりに合わせて学生達がプロデュースし、山形の町を彩りました。

東日本大震災の犠牲者の鎮魂と復興を願って始まったこの祭りを、10年目・10回目の大切な節目の今年は、「絆の火を灯す」という想いで、実行委員会としてはできる限りの方法で安全安心な開催を模索してまいりました。

あらゆる感染対策を講じ、多くの皆様のご協力をいただき、こうして無事に開催できましたことに心から感謝を申し上げます。

これまでも東北絆まつりは東京23区と連携し、様々なイベントに参加しています。新型コロナウイルス感染症の影響により参加予定だったイベントが中止になるなど、思うように首都圏に足を運べない日々が続いていますが、こうした中オンラインを活用した事業など、多角的な視点から今だからこそできることを模索し、多くの皆様に東北の魅力を発信していければと考えております。

東北絆まつりを構成するまつりは、今年も中止・規模を縮小しての開催となるなど、厳しい状況が続いていますが、「東北はひとつ」です。コロナ禍においてもその気持ちを忘れることなく、心を一つにして、逆境を乗り越えてまいります。皆様に安心してお祭りにお越しいただけるようになった際には、ぜひ東北へお越しください。

(東北絆まつり実行委員会)



山形花笠まつり・盛岡さんき踊り



仙台七夕まつり



福島わらじまつり

秋田竿燈まつり

これからの“全国連携”に期待すること



埼玉県町村会長(杉戸町長)
古谷 松雄

埼玉県町村会は、県内町村の事務の円滑な運営と地方自治振興発展を目的として設立された団体で、特別区の数と同じ23の町村で構成されています。

人口減少や都市部への人口流出が喫緊の課題となる中、地域連携の重要度が増しており、地方創生においても、各町村では、都市との連携が施策の柱の一つに掲げられております。

埼玉県は、神奈川県、東京都とともに、武蔵国ということで、一緒に国であった時代もあり、古くから縁のある

関係であります。

埼玉県の町村と東京23区は、これまでも色々な交流を行っております。

こうした連携を深めて自然豊かな埼玉県の町村と経済の中心である東京23区が共生・発展していくために、平成30年5月1日に連携協定を締結しました。

埼玉の町村は都内から近く、自然も豊かであり、この交流は、各町村にとって情報発信の大きな力となり、地域の元気づくりに資するものと期待しております。

人は、繰り返し見聞きすると、知らずにそのものが好きになるそうです(単純接触効果というようです)。知ることが好きになる第一歩だと言えます。

今年も5月11日から6月24日にかけて、連携の一環として、「ぶらっと埼玉〜ちかくて楽

しいプチ旅行〜」と題し、埼玉県23町村の魅力を紹介する展示を開催していただきましたが、こうした取組みのように、地域の魅力や資源を知ってもらい、興味をもってもらうことが、互いの資源を活用し関係人口を創出するために大切です。

わたしたちも特別区全国連携プロジェクトとともに様々な取組みを通じて埼玉県の魅力をお伝えできるよう頑張りますので、これからも埼玉県の町村をよろしく願います!



連携協定締結の様子(平成30年5月1日)

様々な連携をおこなっています!

東武の沿線まつり

(毛呂山町・越生町・嵐山町・小川町・寄居町等・豊島区)

東武東上線沿線の自治体では東武百貨店、東武鉄道と連携して「東武の沿線まつり」を開催しています。当日は東武東上線開業についての歴史や鉄道クイズ等の催しに加え、東武東上線沿線にある埼玉県の町村からも多数のゆるキャラが参加し、来場者の方々と触れ合いました。(写真中央は越生町マスコット「うめりん」)



(令和2年1月25日)

ふくろ祭り

(越生町・寄居町・豊島区)

「ふくろ祭り」は、宵御輿大パレードに代表される「御輿の祭典」や、都内最大規模のよさこいイベントでもあるよさこいコンテストが行われる「踊りの祭典」で構成される豊島区内最大のお祭りで、2018年には100万人規模を動員しました。埼玉の町村からは越生町、寄居町が物産展に出展し、多くの方が来場しました。



(令和元年9月23日)

「AZABU WORLD FESTA」での歌舞伎体験ワークショップ

(小鹿野町・港区)

港区が地域コミュニティの活性化を目的に開催するイベント「AZABU WORLD FESTA」に、小鹿野歌舞伎保存会が参加しました。当日は小鹿野町に伝わる伝統芸能「小鹿野歌舞伎」を体験できるワークショップを行い、来場した区民の方々と文化交流を行いました。



(令和2年2月8日)